1998年10月20日

森営林署長　村上　　博　様

(社)北海道自然保護協会
会長　俵　浩三

森町鳥崎川流域の公有林野等官行造林地の伐採に関し環境保全上の留意を求める要望書

このたび森営林署と森町では、標記の造林地約50haで伐採を計画していることが明らかにされました。一般的に人工造林地では、成林後に伐採するのが当然と考えられておりますが、当該地は、駒ケ岳山麓の火山灰地であり、平均斜度20度とはいいながら、部分的にかなりの急傾斜地を含んでいるため、この伐採により、河川の増水や土砂の流出、沿岸の漁業資源への悪影響などが懸念されます。近年の林業は、木材の供給だけでなく、環境保全など多面的な機能を重視した森林経営が求められていることは、いまさら申し上げるまでもありません。

したがってこの伐採計画の実行にあたっては、下記1のような施業方法を導入するとともに、下記2のような流域全体での森林・環境保全体制を確立するように努力されることを要望いたします。

記

1　伐採にあたって配慮すべきこと

(1)　急傾斜地、沢沿い、尾根筋などではできる限り多くの保残林帯を設けること。

(2)　人工林であっても皆伐を避け、等高線に沿った帯状伐区とし、伐採跡地に植林を行いながら、全体として段階的な伐採をすること。

(3)　伐採作業にあたっては、表土の腐葉土、腐食土を残すように配慮すること。

(4)　具体的な伐採方法の検討にあたっては、第三者、専門家などからの意見も十分に聞くこと。

2　流域全体の土地利用を改善すること

(1)　市街地部分の鳥崎川は、河川断面がさほど大きくないので、上流の森林伐採の影響などで増水すれば、その被害が拡大されることが懸念される。今回の伐採対象地は、たとえ50ha程度であっても、河川流域で類似の伐採等が繰り返されれば、その影響は相乗作用を発揮するので、流域全体の森林保全、土地利用計画などについて関係者が密接な連携をとり、適切な対策を講ずること。

(2)　上流に設置された駒ケ岳ダムにより、河川への大きな転石の供給が断たれたため、下流域では川床の浸食・低下が進み、これにより川岸の崩壊など河川環境の荒廃が懸念されるので、森林伐採の結果生ずる増水量をできるだけ抑えるとともに、土砂流出を防止するよう努めるなど、より適切に行うこと。

1998年10月20日

森町長　湊　美喜夫　様

㈳北海道自然保護協会
会長　俵　浩三

森町鳥崎川流域の公有林野等官行造林地の伐採に関し環境保全上の留意を求める要望書

このたび森営林署と森町では、標記の造林地約50haで伐採を計画していることが明らかにされました。一般的に人工造林地では、成林後に伐採するのが当然と考えられておりますが、当該地は、駒ケ岳山麓の火山灰地であり、平均斜度20度とはいいながら、部分的にかなりの急傾斜地を含んでいるため、この伐採により、河川の増水や土砂の流出、沿岸の漁業資源への悪影響などが懸念されます。近年の林業は、木材の供給だけでなく、環境保全など多面的な機能を重視した森林経営が求められていることは、いまさら申し上げるまでもありません。

したがってこの伐採計画の実行にあたっては、下記1のような施業方法を導入するとともに、下記2のような流域全体での森林・環境保全体制を確立するように努力されることを要望いたします。

記

1　伐採にあたって配慮すべきこと

(1)　急傾斜地、沢沿い、尾根筋などではできる限り多くの保残林帯を設けること。

(2)　人工林であっても皆伐を避け、等高線に沿った帯状伐区とし、伐採跡地に植林を行いながら、全体として段階的な伐採をすること。

(3)　伐採作業にあたっては、表土の腐葉土、腐食土を残すように配慮すること。

(4)　具体的な伐採方法の検討にあたっては、第三者、専門家などからの意見も十分に聞くこと。

2　流域全体の土地利用を改善すること

(1)　市街地部分の鳥崎川は、河川断面がさほど大きくないので、上流の森林伐採の影響などで増水すれば、その被害が拡大されることが懸念される。今回の伐採対象地は、たとえ50ha程度であっても、河川流域で類似の伐採等が繰り返されれば、その影響は相乗作用を発揮するので、流域全体の森林保全、土地利用計画などについて関係者が密接な連携をとり、適切な対策を講ずること。

(2)　上流に設置された駒ケ岳ダムにより、河川への大きな転石の供給が断たれたため、下流域では川床の浸食・低下が進み、これにより川岸の崩壊など河川環境の荒廃が懸念されるので、森林伐採の結果生ずる増水量をできるだけ抑えるとともに、土砂流出を防止するよう努めるなど、より適切に行うこと。